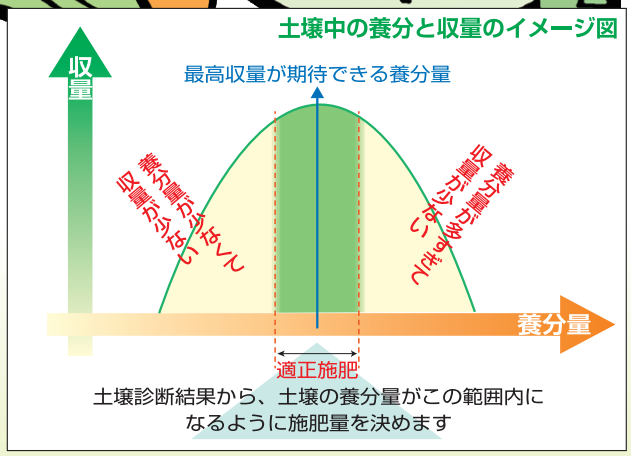
やってみよう土壌診断

土壌診断をすれば、こんなにお得!!

◉土の健康状態がわかります
◉何が余分で何が足りないのか…肥料の適正な投入量がわかるので、肥料コストや施肥コストを減らせます
◉診断結果に基づく土づくりや施肥で、高品質な農産物が作れます

●診断結果が収量と品質安定の手がかりになります

一般的に、土壌中の養分が増えれば、作物の収量も増えますが、適正な量を超えると過繁茂、倒伏、病害・生理障害が起きやすくなり、減っていきます。
土壌診断をすれば、土壌中の養分量がわかり、期待する収量を得るのに必要な養分量を知ることができます。



●診断をおろそかにすると…

定期的に土壌診断をしないと、栄養分の不足や過剰な状態が続き、土壌の養分バランスが段々悪くなり、収量や品質が低下することがあります。

カリが過剰になると…
生育が悪くなり、下葉の葉脈間が黄白化してきます（苦土欠乏による）。

石灰が欠乏すると…
新しい葉の生育や根の発育が悪くなります。
トマト果実は尻腐れ果が発生しやすくなります。

養分バランスが悪い場合の症例

土壌診断は定期的に。作物の顔色が悪くなってからでは遅いのです。

土壌サンプルの採り方

●採取時期

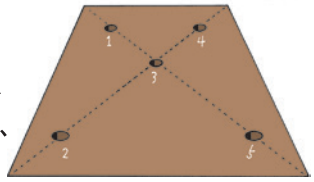
肥料や堆肥の施用直後を避けるのが基本ですが、作目によって違いますので、具体的な採取時期はJA職員に聞きましょう。

●採取・調整方法

❶土を採る

水稲

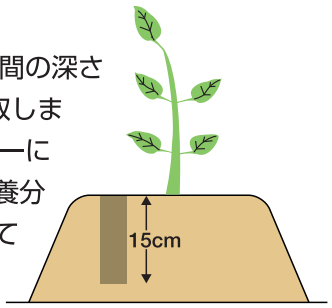
中央と対角線上で5か所、表土を1cm程度取り除き、作土を同じ厚さになるように移植ゴテで採ります。
1か所当たりの量は生土で約500gです。



露地・施設野菜

畝が残っている場合

一般的には、移植ゴテで株間の深さ15cm程度までの土壌を採取します。この場合は土壌が不均一にならないよう、施肥部など養分が突出している場所を避けて採るなどの注意が必要です。

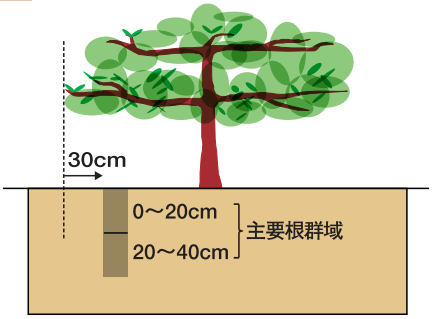


畝がない場合（平坦地）

水稲と同じです。ただし、施設作物の場合は、出入口や窓付近での採取を避け、中央側の土壌を採取します。

果樹

圃場から代表的な樹体を5～6本選び、右図のように、それぞれの樹の樹幹先端から30cmくらい内側の2～3か所で主要根群域（30～40cmまで）を上下に2等分して採取し、各層ごとに混合します。
2層に分けて採るのが理想ですが、上層だけでも診断は可能です。
圃場が傾斜地の場合は、上・中・下部に分け、マルチ資材や未分解有機物がある場合はこれらを取り除いてから採取します。



❷乾燥

採取した土は新聞紙などの上でよく混ぜてから薄く広げ、風通しのよい日陰で約1週間乾燥させます。

❸調整

乾燥させた土を1もしくは2mmの篩に通して、細かい土を集めます。篩の上に残った土は軽く砕いて、また篩に通します。こうして約100g[注]の土を土壌採取袋に入れて、必要事項を記入してJAの担当者に渡してください。

注：分析項目が多い場合は200g

●提出前に再確認

JAの担当者に渡す前に、土壌採取袋や申請書に記入漏れがないかもう一度チェックしましょう。

検査結果のお知らせ

土壌サンプルをお預かりしてから、通常1カ月で診断結果をお知らせします。
（繁忙期ではさらに時間がかかることがあります）
JAの担当職員が、診断結果・処方箋を持参し、施肥設計等についてご説明いたします。
詳しくは、JAにお問い合わせください。